

突然のキャリアチェンジ

愛港園診療所

木戸友幸

その経緯

- 1997年～2015年まで（医）木戸医院（1960開院）にて継承開業
- この間父が法人理事長で、私が理事の一人
- 理事長は病明けで、97年以降はほぼ私が単独で診療（理事報酬は私の辞職まで折半）
- 2013年頃より、経営面、診療面等に関し、理事長からのパワハラ
- 理事長の意のままになる親族で理事を総入れ替え
- 2016年に私の理事解任を理事会が決定

先ずは産業医を目指した

- **2015**年夏に東京医科歯科大の1週間の日医産業医講習に参加
- 資格を得てネットで就活
- 1年間は、就職先見つからず

Friend in need is friend indeed.

- 木戸医院の門前薬局社長が、特養管理医師の職を紹介
- 国立大阪時代に指導した研修医（現在開業中）が非常勤職を提供
- 産業医業界に通じた複数の知人が産業医の職を紹介
- ネットでの就活は役立たずで、やはり人脈！（情けは人の為ならず）

新しいキャリア

- 2017年には、現在の就業体制がほぼ完成
- 週4回の常勤特養管理医師
- □ 1日半の嘱託産業医（徐々に会社数増え、現在5社）
- 週一回半日の後輩医師の医院の在宅診療

新キャリアの満足度

- 特養：家庭医開業医療の延長。病診連携が要。疾患の社会的背景や慢性疾患の自然歴が学べ医学的にも魅力あり。10~16時労働と肉体的負担は軽い。
- 嘱託産業医：業務の大半は、うつ and/or 適応障害の面談、受診指示、職場復帰後の面談。この種の面談も家庭医が得意とするところ。
- したがって、新キャリアにはすぐ馴染め、その職業上の満足度は極めて高い。

収入

- 結論は週6日働けば、十分の収入は得られる
- 週6日といっても、特養は10~16時、嘱託産業医も月1~2回で1時間勤務から3時間~6時間/日と負担は少ない
- 3人の息子は独立しており、彼らの学費が嵩んだ日々より経済的には余裕あり
- とはいっても、70歳過ぎれば上記が成り立つのは、健康であることが必要条件。経済的余裕があるうちに、もしもの時に備えた各種投資による資産運用も必要

忙中閑あり

- □ □ □ □ □ から10年余り欧州航空会社の顧問医をしている
- 月1人程度の患者（ホテルに往診）なので、仕事の負担は軽い
- ボーナス的な意味合いで、年に一度夫婦で欧州往復の航空券の支給
- キャリアチェンジ後、2024年を含め3回利用させてもらった









結語

- □ □ □ 達してのキャリアチェンジには人脈が必要
- 健康でさえあれば、収入の心配はなし
- 高齢者施設の管理医、産業医は、家庭医（総合診療医）であれば、理想の職場である
- 元病院勤務医、元開業医に関わらず、時間的余裕は確実に増える